

シンポジウムの開催にあたって

人口10万人の南国・香美地域が、これまでの遅れを取り戻し発展の鍵をつかもうと、地方拠点都市整備法の指定に向けた努力をしています。いま、六省庁の情報収集に努めていますが、国は基本方針を九月中に策定し、年内には知事

と協議するようになっていきます。若者がどんな魅力を感じ定住していくのかといった計画を、行政と住民が一体となって考え、そして実行していくため、このシンポジウムを契機のあるものにしていただきたいと思います。(会長 大町南市長)

住民の英知をまちづくりにと、8月31日南国・香美地方拠点都市地域指定推進協議会(会長 大町行治南市長)がシンポジウムを開催。会場は450人を越える参加者でいっぱい。基調講演や各界の立場を代表した五人のパネリストが意見を發表しました。

会場



和瀬俊英さん・東崎

- 主な参加者(敬称略)
- コーディネーター 藤戸謙吾 高知新聞社編集局次長
 - パネリスト 佐土原清修 三菱電機高知工場長(企業の立場から)・香我美町 田中淳一 野市町商工会事務局長(商工観光の立場から)・野市 溝淵源樹 高知三和農協組合長、南国 国見森林組合長(農林水産業の立場から)・南国市 寺村勉 南国青年会議所理事長(青年の立場から)・土佐山田 島内瑞枝 南国市連合婦人会副会長(女性の立場から)・南国市

市政に関心があり、大町市長がどう取り組むか聞きたかった。市の財政がたいへんななか、拠点法をパネリストがどう活用するか期待しています。住民がどう消化し、行政に反映させるか大切だと思っています。11世紀を担う若者の出席が少なかつたのが残念ですね。



末政賀子さん・田村



五人のパネラーの方々がたいへん積極的なのに感激しました。特に、文化会館の建設、後免町のまちづくりには共感を覚え、黒潮民俗館などの発想もユニークでした。空港を基点にする観光バスの運行も面白い思ひ付きですね。心を一つにして発展してほしいと思います。



岡本九郎さん・篠原

地元発展には関心があります。道路整備や空港問題など困難を予想されますが、一歩一歩進んでいただきたいと思います。住民も厳しいことを言うでしょうが、結局行動力のある行政を頼もしく思っています。市長の積極的な市政に期待しています。

物部川流域は豊かな自然と長い歴史のなかで多くの人材を輩出しています。この地域の発展が、これからの高知県を左右するといっても過言ではないと思います。皆さんに、地方拠点都市づ



はじめに これだけ多くの方が集まったことについて、このシンポジウムの意義の大きさを感じていますし、時期を得た企画だと思っています。

藤戸謙吾さん

三菱電機は、昭和六十一年に進出。以来、地元の方にはお世話になっていました。現在半導体の不況がいわれられていますが、高知工場では半導体の最先端部品をフル稼働で生産しています。従業員は、関連会社七社をいれて約千二十人、今年、百三十八人を採用しました。



大きい経済効果 くりへの意見を述べていたたきます。

佐土原清修さん

設備投資も今までに千二百億円にのぼっていますが、これも行政や地元の熱心な誘致の取組みの結果であると考えています。企業としてこれから地域の

出身地の内訳は、高知県が八十六割で、うち南国・香美郡が三十六割、高知市が三十割です。居住地を見ても南国、香美郡が六十五割、平均年齢も二十六歳で、約六割が独身者です。この点からも人口増に貢献できるのではないかと、思います。



最後に一言、これからは道路整備など物的なもののほか、地域の文化環境など、多面的なものの整備をお願いします。

田中淳一さん

南国・香美をどのように活性化させていくか、主役は住民自身であるとの自覚が大切なのではないでしょうか。価値観の多様化している現代、地域社会の資源を活かした個性豊かな、若者が生き生きと、自信と誇りを持って生きるこのことができることが大

切なのではないのでしょうか。この地域に観光など社会的資源には恵まれています。南国市の西島園芸団地、国分寺歴史民俗資料館など、土佐山田町の龍河洞、野市町の動物公園、三宝山スカイパーク、鶴島博物館など、支那町のサイクリングセンターなどや、いくつものゴルフ場があり、ますが、ほとんどが点と点としてあるだけで、お互い連携していないような印象を受けています。

また、せっかく子どもを生ま育てもやがては県外に就職するのでは、寂しさを感じます。どうか、南国・香美に定着できるようなすばらしい都市機能を持った豊かなまちづくりを今回のシンポジウムを機会に作ってもらいたいと考えます。

均質ある産業発展を

この地域は県下きつての穀倉地帯です。村々もこの地域は県下でも発達したところでもあります。

魅力のある職場がある
住み家がある
自分が高める学びがある
南国・香美拠点都市の将来像
ゆとりのある遊び場がある
求めたシンポジウム

会場から



山岡芳久さん・後免町

基調講演
拠点都市構想実現への課題

横山昭市愛媛大学教授

国土政策の中で、東京への一極集中を是正し、地方に分散する法律が地方拠点都市整備法です。その背景には、東京などの本社機能の維持が地価とオフィスの賃料が高くなりすぎたこと、通勤や住宅など従業員の生活維持が困難になっていることがあります。そして一方では、地方を活性化しなければならぬ。いままでの産業政策は、例えばカシオや三菱のように工場の移転だけであったものを、業務機能までも移転させようというものです。その前提となるのが自動車道や空港、港湾整備などの面で、地方はすでに交通の基盤が整ってきていることです。

高知県では、高知空港と高知自動車道の交通体系があることが、地方拠点都市づくりにおいて重要な条件であると思います。高知市への一極集中を是正し、



横山昭市さん・愛媛大学

県東部の発展の基礎となる新しい種として整備するのが、この法律の精神です。産業構造の多様化と所得の向上を図っていくのが目的です。いま農産物は空港を利用して出荷

た工業団地もいくつか予定されています。人口定着についても、他県出身者に来てもらい、住みつけてもらう様にしなければいけません。これらの人のために生活環境を整備することが必要になります。地価の高い高知市はすでに限界に達しています。リターンする人や他県から定住を希望する人に良好な住宅地を供給できること、文化・研究施設を活用できることが拠点都市としての可能性です。

田園都市としての発展が願いますが、バス近くの調整区域などは早期に見直ししてもらいたい。行政も条例などを早く整備し、拠点都市づくりに本腰を入れて実行してもらいたい。これからは商業の活性化が課題。後免町の再開発にも積極的に協力していきたい。



公文知代さん・比江

紀貫之にゆかりがあり、歴史館のようなものはぜひ建ててもらいたいですね。工科系の大学などで高知県の教育レベルがあがれば、若者も定着するのでは。系たちにも近くに就職してもらいたいが、県外の大学に進むと帰ってこないことが多いので。

活力のある社会にするためには若い人が必要で、そうした再生産の条件を作っていく必要があります。先端的業務をサービスする産業の立地条件について調査したところ、大学や高専など、先端的産業を支える人材のあること、図書館や書店、銀行や官公庁の出先などが多くあることとともに、喫茶店などの数も関係があります。つまり、日常生活でリラックスできる施設がなければ駄目なのです。交通条件が良いだけでは、人も企業も来ません。教育・文化・あるいは余暇をどう過ごすことができるかが大切になってきています。これらの基本にあるのが土地利



高橋 謙一さん

しかし、若者の流出による高齢化と過疎化が進み、地盤沈下が続いているなか、一次産業としても、郷土の発展を一番に考えていくために真剣に取り組んでいかなければと考えます。

地域指定につきましても、一部の産業や行政の思惑ではなく、住民に誇りと実益をもたらすものであれば理解と協力を示していかなければと思います。そのなかで周辺整備、特に一次産業の振興を図ってもらい、拠点都市づくりのひとり歩きで他の産業が切り捨てられることのないように配慮してもらいたい。企業誘致など産業立地にし

そうしたなか、都市計画、企業誘致、住宅団地、工業団地、空港整備に物流拠点整備と先祖からの土地の提供など、開発については一次産業は誘致を求められる立場にありま

てもこれからは、環境を保全するという範囲のなかで行ってほしい。物部川や国分川の豊かな水資源は、植林して育てた広大な山林からもたらされたものであることを忘れていてほしいのです。また、企業・住宅団地の立地などでも、時間距離で考えたら、中山間地の振興に役立ちます。これから、企業誘致などでこの地域に来られる人々のため、レクリエーションの場や別荘地としても提供していきたいと思っております。一次産業の産物についても地元との連携などから積極的に購入していただき、共に発展する関係を作りあげていきたい。



寺村 勉さん

ある機会に、東京部のベックトタウンに住む人と話したのですが、そこではもうまちづくりなどはできないと悲観的

なことを聞いたことがありません。つまり、施設的には恵まれているようですが、そこは寝るために帰って来る場所にしかならないからです。たとえば、コンベンションホールができた場合、大事なものはそこから何が生まれるかということだと思います。そして、施設ができた場合も一市・一町のものであるといった考えは取らないほうがよいと考えます。高知市の東に生活するものといった広域的な考えで、きちっとしたビジョンを示してもらいたいと思います。行政区の合併といったものでなく、気持ちの合併が必要とされているのでは。夏には各地で色々とイベントが催されましたが、共同で取組みのできるものもあつたのではないのでしょうか。一緒にやるうちに、うまくコントロールできれば、何か新しいものがでて来るような気がします。

まちづくりにとって必要なのは、どのような立派な施設があるのかより、どれだけ町を愛する気持ちを持っているのかに重点を置いてほしいです。施設だけ建てれば、若者が定着するのかなという疑問



島岡 謙一さん

誇りを持ち、人情味にあふれ、心の豊かさを持つ町であることが大切です。大都市は環境が悪いので、仕事があれば帰ってきたいという声も多く聞きます。若者が定着するためには、仕事や学校のあるなしが大きな要素ですが、伝統文化のよさを子どもたちに伝えていくことや自然を活用するなど自分たちの気持ちを変えてみることも必要ではないでしょうか。

若者が何に魅力を感じるかといえば、町にカラーがあつて、自慢できるビジョンがあることなのではないでしょうか。その実現のため地方拠点都市づくりは大きなチャンスとハえます。これからは、郷土を愛していきたくて願っています。

また、住民に住んでよかつたと満足を与えるためには、文化教養施設の充実が必要で、黒潮に洗われていた地理性を活かして、黒潮文化を創造していくなどはユニークではないでしょうか。太平洋は自然の宝庫であり、その恵恩は限りありません。南国市では文化ホールは念願のものですし、野外劇場、美術館、図書館、博物館などが一体となった文化の森を作るなど、この南国・香美地域を個性のあるものにしてほしいですね。まほろばの里には紀貫之資料館もぜひ。この地域の核となるのはやはり後免町、再開発にしても〇〇通り、△△通りといった名前をつけ、アーケードやカラー舗装でしやれた感じにすればどうでしょうか。買物だけでなく、ゆとり、憩いなどを含めたカルチャーで自分の教養を深める時代になっていきます。そうしたニーズに応えるまちづくりが必要で、そうすれば、近隣の市町村からもっと多くの人々が集まるようになるはずで、女性の立場から、女性の活動の拠点となるシンボルとしての施設の整備を、ぜひお願いしたい。